

## 原油市況

原油価格は、5月下旬にWTI( NY原油先物)が1バレル=46ドル台まで下落したが、その後は根強い需給ひっ迫感から再び騰勢を強め、8月12日には終値で66.86ドルと史上最高値を記録。堅調な米国経済を背景に輸送用燃料などの需要が拡大していることに加え、夏のドライブシーズンを迎えガソリン消費が増大する一方、米国の石油精製能力が限界に近いことや相次いだ製油所火災、サウジアラビア国王死去後の政治情勢不安等から上昇。8月中旬以降も60ドル台で推移しており、当面は原油価格の高止まりが予想される。

## 米国経済

米国では、05年4~6月期の実質GDP成長率(速報値)が前期比年率3.4%となり、景気拡大が続いている。8月のエコノミスト予想によれば、今後も3%台前半の経済成長が続くと見込まれている。こうした景気拡大の持続を反映し、雇用環境の改善(05年に入ってから非農業部門雇用者数は月平均184千人の増加)が続いている。一方、7月コア卸売物価が上昇する動きを示しインフレ懸念が再浮上。米政策金利は8月9日に0.25%引き上げられ3.50%になり、利上げ継続が示唆されている。

## 国内経済

わが国では、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、緩やかに景気が回復している。4~6月期の実質GDP成長率(1次速報)は前期比+0.3%(年率+1.1%)と、3期連続のプラス成長となった。しかし足下の生産は、電子部品・デバイス等ハイテク関連業種での在庫調整が進捗しているものの、横ばい傾向で推移。一方、設備投資は企業収益の改善を受け緩やかに増加しており、先行指標となる機械受注は引き続き7~9月期も増加する見通し。雇用・所得環境の改善などから消費者マインドも改善・向上している。

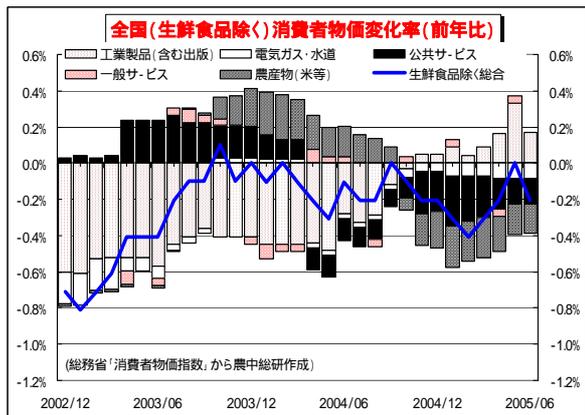
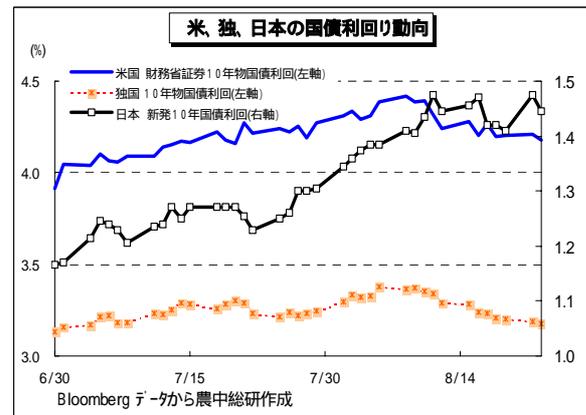
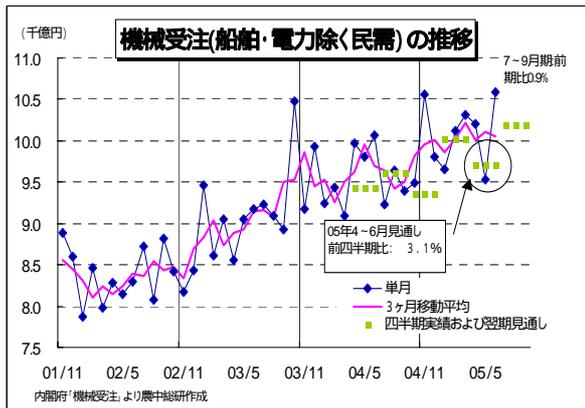
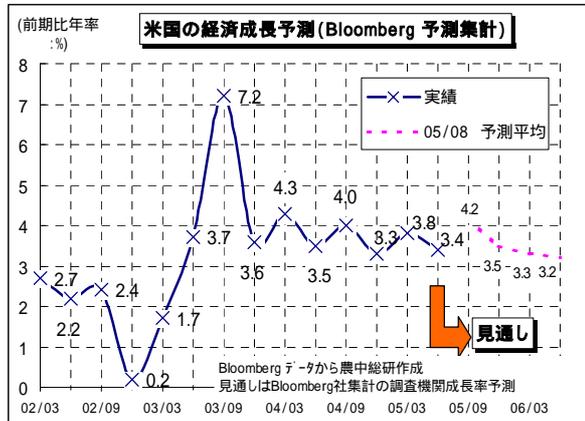
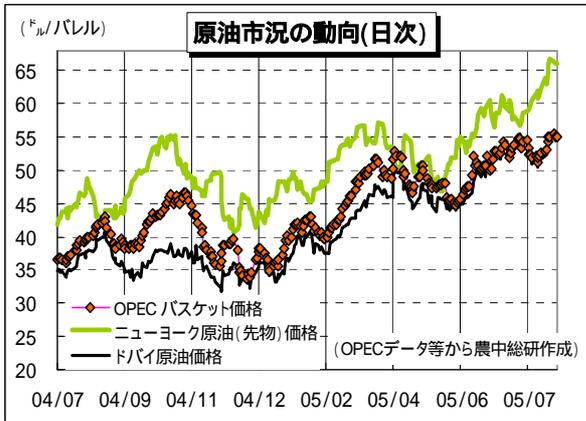
## 為替・金利・株価

外国為替市場では、日本株の上昇を受け円高となり、このところ1ドル110円付近で推移している。日本の長期金利の目安である新発10年国債利回りは1.4%台に上昇。一方、原油価格の高止まりが続いているが、消費者物価は小幅下落をたどっている。日経平均株価は、国内経済指標への好感や米株高に牽引されて上昇し、8月初旬に1万2,000円台を回復、年初来高値を更新した。第44回衆院総選挙(9月11日投票)の行方が注目される。

## 政府・日銀の景況判断

政府は8月の「月例経済報告」で景気判断を上昇修正した。「企業部門と家計部門がともに改善し、緩やかに回復している」との表現。また日銀も、8月の景況判断を上方修正。政府・日銀はともに8月9日、「景気の踊り場」からの脱却を宣言した。

## 内外の経済金融データ



(詳しくは、ホームページ-トピックス-(今月の経済・金融情勢) <http://www.nochuri.co.jp>へ)